

# あてがいふちのシナニから 極寒の細走まで

勵 金哉

私の初犯で行つた所は、年令的に二〇〜三〇歳が主で特に二〇〜二五歳が八割だった。未決中にさんざん役人に驚かされ、下獄するのが恐くて父を呼び、なんとかしてくれと願つたが、父が「昔は悪い事をしなくとも、男二〇歳になれば軍隊という監獄へ強制的にブチ込まれヤキの明け暮れでクソをたれながら涙を流したものだ。今は殺されるであるまいに人生の良き経験だ。家の事など忘れて元気で務めて来い。皆んな待つてゐるから……」と別れの激励を頂き「どうでもしやがれ！」といり根生に変えビクビクと下獄した。

私物衣類をハガレでシラミとノミまでてがいぶちのアオテン（官服）を着て舍房に入る。あいさつ（罪名、刑期、名前等）すると、手ぬぐいで目隠しをされ早速ヤキを受け、今までの便所當番から次の新入りが来るまでその他一切の引継ぎを受けた。その夜から便器（五〇セ

ンチの楕円形、高さ四〇センチ）の脇でねて毎朝夕の出し入れ（九し一五人の雜居で一晩でマンタンになる）をする。そして先輩の後について出役する途中に探検身があり、自分の称呼番号を大声で叫び、片足ずつ上げて足の裏まで見えるようにながら木馬をまたぐ。その先につるしてある作業衣を着て食堂に入り、その後工場にて全員にあいさつをする。工場は五工場あり、一工場に五〇人（八〇人位おり、各々大、中、小の幹部がおりそれらに一人ずつあいさつするには三日位かかる。幹部に知人がいれば大変助かる。あいさつは罪名、刑期、土地、名前等でこれにより後の扱いが決まる（罪名でほとんど左右される）。ヤクザとカタギでも分かれる。殺人、傷害、恐喝、強盗、博打等がヤ公系で窃盜、詐欺系がカタギとされ、その下がバーブー（精神異常とされている者）という。とにかく獄は社会の縮図です。

新入分類期間は二週間で出役場所が決まる。私は木工場と決まり、百人近い工場へ決まり、毎日が使用不能な道具の手入れとゴミのない所を掃除しながら一日中幹部達の顔色を見ながら一日が終る。なんとも心労の激しい所だ。一ヶ月し二ヶ月して次の新入りが来てやつと解放感を知る。なんと言つても食料難の時代だから、一日中食べ物の事で苦心する。そしてまわりになれてくると反則を覚えてくる（覚えさせられる）。

## 盛んだつたプラツクマーケット

当時は社会と同様プラツクマーケット（反則）が盛んで、煙草が貯蔵的役割をしていた。それで売買される物は、めし一本と煙草半分、おかず二回分で煙草半分、私物石鹼一個と煙草一本、私物パンツと煙草一本、毛糸胴巻では五六本。チリ紙百枚と半分、オカマ一回で一し二本などと反則マークは無限にある。暴露した時の責任を買う特攻隊（懲罰へ）、売買の仲介、運び屋等々無い物は女と酒の本物だけだ。とにかく当時は役人もかなりやっていて、製品の依託業者、未決囚から弁護士、出獄者の投げ込み等々想像を絶する物がどんどんまわつていたのだ。ネタの切れたのを知らない位だ。役人などは自分でネタをまわしていくながら反則が他の役人にバレると

そいつと一緒にになつてクソの出るほどバットで叩くのだから頭に来るが、文句を言えば以後全てのマーケットから締め出しをくつてしまふ。とにかく拾つたの一点ばかりで通さなくてはならんのでケツはいつも真黒になつていいだ。ヤキは安かつたが懲罰房へブチ込まれる事は少い。反則を隠れてやる分にはそれを探そうというヤボな役人もいなかつた。大半がやつている事だから、役人の気概が悪く訳もなくブットバサレル事がつてもただあやまるだけですむ。あまり荒っぽい時には幹部級の奴がオヤジに詫びてくれるとたいていは止めてくれる。早く役人、やる事だ。反則の取り引きの場は、四五分の昼休みに各工場の全員が大運動場に出て遊ぶのでそこで行なわれる。役人は三〇人位がまわりの要所に散り、その中では五六百の懲役がいたる所で何かをしてゐる。毎日のこの時間が何より楽しい。一番多いのは裸になつてシラミを取る様だ。これ故に役人は中に入つて来ない。それぞれのグループの陰で煙草を吸う者、バクタン（農薬ニコチン）を吸う者もいる（これは二服も吸うと倒れる）。

か細いヒモとして……

砂場の脇にある便舎（懲役の便をためておく所、百姓

が使う）小屋ではカツバとオカマのねちこい取り引きがあり、これは食い気の私にはぜんぜん興味はなかつたが

私の房に美人が二人もいて、そのヒモ的存の副房長か

い様だつた（いつもニコニコ美人だつた）。

仮釈につられて網走へ

ら見張り役を頼まれており、商売が終るまでその砂場ですもうなどして終るのを待ち、そしてそのかせいだ煙草を一服あやかるという訳。私ら他の同房者もか細いヒモでした？ 寝床で吸う一服は頭のシンまでしびれて麻薬だ。八ヶ月位は二人の美人のお陰で甘い物と煙草とバクシヤリには恵まれていた。この美人氏は泊りでかせぐ時

もあり、それは土曜日夜から日曜日との二晩をカツバの所で泊る。その代りにカツバの房から特攻隊が身代りにこちらへ来て泊る。たいていそんなカツバは大幹部クラスだから金払いもよく、また特攻隊氏に差し入れが届きだ。しかしチンココ（密告）もあり、かせぎの多い私らの房は役人のネタみが多く、三日に一度のバットを三発はあきらめていた。骨にさえ当らない限りは、懲罰房にブチ込まれるよりよいのでバットを逃れる術はない。それがよりも庭重なるうちに煙草も平然と吸う事ができた。とにかく、か細いヒモだから……！

まあこれにてアンコと苦痛を共有した氣でいたのだからオソマツだ。アンコ駄は、私が案する程の苦痛はな

仕事は大半が農業で一畦何百メートルと長いが、現実はそりはいかない。十年過ぎると刑務所はガラリと変っていた。シラミとノミは去り、ヤキも去り、反則は去り、仮釈も去り打たれる刑は五割は高い。その頃網走は三年未満の短期刑者を内地から、仮釈を必ずやるからと暮っていた。

仕事は大半が農業で一畦何百メートルと長いが、現実はそりはいかない。十年過ぎると刑務所はガラリと変っていた。シラミとノミは去り、ヤキも去り、反則は去り、仮釈も去り打たれる刑は五割は高い。その頃網走は三年未満の短期刑者を内地から、仮釈を必ずやるからと暮っていた。

んでしるこの食い放題で寝ていられるから、またも仮釈の話に花が咲く。ところが四日目からは牛馬よりあわれだ。網走の牛馬は天国だ。一日牛馬もせず、憲役が面倒をみてあれこれとまるで「人間ドック」の入れ代うだ。囚人は紙一枚で張らでも来るが牛馬はただでは云ないといふ事で牛馬の仕事は四人がかり、荷馬車（荷車）を一人位乗せんと均整が取れない。要するに牛馬の背の高さ位前を上げて引かなくてはならない様にしている。

私は土工として營繕に配された。營繕とは、シバでは職人連中なのだが、刑務所に来る自称何々といふ職人は大工たちは大六（だいろく）といふ様に少し数の足りない方が多くすぐばれてしまう。そんなハンバ職人が荷車を引いて官舎まわりの運送（薪、石炭等が多い）をする。調走番外地は囚人の数より役人室、夢の人數が多いといふ憲役様々の町なのだ。

### 極寒の牛の懲罰房

憲役のつらい事は何よりも寒さだ。半年は冬だからそれだけでも四分の一の飯糰の価値があるところへ仕事を強いのだから三分の一は当然なのだ。しかし現実は平均の大分の一が多い。私の知るところでは三分の一は一人

源助さんから送られた原稿の手紙。便箋四枚にビフシリと書かれてある。尚、尉さんは現在体をこわして八王寺医療刑務所にいる。お大事に。

源助さんから送られた原稿の手紙。便箋四枚にビフシリと書かれてある。尚、尉さんは現在体をこわして八王寺医療刑務所にいる。お大事に。

源助さんから送られた原稿の手紙。便箋四枚にビフシリと書かれてある。尚、尉さんは現在体をこわして八王寺医療刑務所にいる。お大事に。

もない。六分の一、五分の一も反則なしの引受人ありの条件付である。結局前科者には仮釈は夢という事だった。とても反則なしの「渡世」ではない。

私がまだ忘れない懲罰は、当時病舎へ暖房を入れるという事でその配管の掘削作業をしている時、あまり寒いので（零下一五度～二五度が毎日だ）、シンナーを水で割って飲んで土方をやっているときだつた。地表から三〇～五〇センチまで凍つてツルハシの先は丸くなり、オチコに一杯の土も崩れずはねられてしまふ為、大ハンマーで地表を空打ちして地表をゆるめて更に三〇センチのタガネを地を切るよう並べ打ちしてからやつと一力ケラの土を掘る（というより手でどける）。そして次々と進める内に一人で一立米の五分の一（採箱三ツ分）位しか掘れず、翌日はその下が更に凍つているという事で一メートル五〇センチの深さを一メートルの幅で一メートル進むには一週間かかる。その掘出は砂の様に崩れやすい。その盛り上げてある上へ役人が来て計棒で見て歩く訳だが、やつと畠り上げたのを側え来て崩して穴を埋めてしまつて笑つてるのでシンナーの酔いとあわせ頭に来。穴の中からその役人の足を引いた事により穴へ落ちて大騒ぎとなり、特警が二〇人位とんで来て殺人未遂という事にされ、暮の二五日から二月の中頃までの五

○日間懲罰を受けた。この懲罰房が恐しい所で内壁に五センチ厚みの氷が張る。どこからこんな水分が来るのか、日中に一日がかりで取つても夜の一〇時頃からビシビシと割れる様に氷が張り始めてくる。そうなると眠れず起きて足踏みして一夜を明かす。床はレンガでゴザ一枚と毛布一枚。服は下着だけというのだから毛布を体に巻いて、ゴザを小さく折つてその上を足踏みしている様を想像してほしい。死んでいないかと一時間おきにのぞきに来る。この五〇日間は言語に絶する事ばかりだつた。今だに思えば怒りがこみあげてくる。

（この頃の反則といえば獄内の規則違反で、外部と結ぶ事は煙草位の事だつた。ヤキがなくなつた事によると進める内に一人で一立米の五分の一（採箱三ツ分）位しか掘れず、翌日はその下が更に凍つているという事で一メートル五〇センチの深さを一メートルの幅で一メートル進むには一週間かかる。その掘出は砂の様に崩れやすい。その盛り上げてある上へ役人が来て計棒で見て歩く訳だが、やつと畠り上げたのを側え来て崩して穴を埋めてしまつて笑つてるのでシンナーの酔いとあわせ頭に来。穴の中からその役人の足を引いた事により穴へ落ちて大騒ぎとなり、特警が二〇人位とんで来て殺人未遂という事にされ、暮の二五日から二月の中頃までの五

○年賃金一年五千円前後。誰が決めるのか賃金だけはなし、一年の賃金三千円前後、社会も同じ一日分。五〇年代精神的苦痛大にして仮釈なし、反則品ほとんど々々仮釈なし刑は重い、一年の賃金は土方の一日分。四

いつも社会の一日分が懲役の一年分と合致している。これが更生資金なのだ、早く戻つて来いという）